

## —シンポジウムまとめ—

### 阪本

以上で日本の国際協力シリーズの3冊に関する一通りの、と言っても網羅的なものではございませんが、可能な範囲でのご紹介とさせていただきます。最後に3分程度でまとめをさせて頂いて、その後にはフロアには多くの著者の方もいらっしゃいますが、学生の皆さんからも、ご質問やご意見を伺いたいと思います。チャットもしくは口頭にてご質問ください。

**15:40 国際開発学会第32回全国大会@金沢大学JASIDブックトーク**  
**(5)『日本の国際協力』シリーズ、アジア編・中東・アフリカ編 (ミネルヴァ書房)**  
**コメントBY 大橋正明 (聖心女子大学)**

評価する点

1. **日本のODAを地域別・国別にほぼ網羅的に取り上げた好著で、学生、実務者、研究者に役立つこと**
2. 本書の執筆者が皆、開発協力大綱とSDGsを基準として、ODA事例を検討していること
3. 多くの国で、日本のODAの二例を取り上げて、展望と課題を具体的に詳述していること
4. 二つの地域別、それぞれのサブ地域別などで、ODAの分析を明確に行っていること
5. 重要点を適宜コラムで深堀りしていること
6. **多数・多様な専門家の筆者を揃えてまとめていること、などなど**

もう一步と思った点

1. 開発協力大綱(旧ODA大綱)とSDGsのより巨視的・多角的な検討。例えば**ODAの量の国/地域間の比較検討**、**借款のタイド/アンタイド議論**、「質の高い成長」の質の検討など
2. DAC諸国や新興国の開発援助との比較
3. **各編あるいは予定の3編が揃った時点で、各地域あるいは全体的なODAの姿の見直し**

以前、国際開発学会のブックトークという場にて、本シリーズを紹介させて頂いたときに、聖心女子大学の橋先生にかなり絶賛して頂きました。本日は橋先生からコメントを頂いておりますのでご紹介させていただきます。「日本のODAを地域的、国別にほぼ網羅的に取り上げた好著で学生や実務者、研究者に役立つという点」ですとか、他にも多く挙げて頂いているのですが、「多種多様な専門家の筆者を揃えて編集していること」なども評価して頂きました。その一方で課題もいくつか挙げて頂いています。「地域間比較の検討」であるとか、予定していた3編が揃った時点で「各地域のあるいは全体的なODAの姿を見直すということがあったらよかった」ということでした。本シンポジウムにて3編を一通りご紹介しましたので、明らかになったさらなる課題を考え始めるきっかけとし、皆さんのお声もお伺いできればと思っています。

阪本公美子（宇都宮大学国際学部教授）

## 『日本の国際協力』 アジア編、中東・アフリカ編、中南米編を通して…

- ・ ODAの量の国/地域間の比較検討
  - ・ アジア>アフリカ・中南米、地域内、国内の差
- ・ 各地域あるいは全体的なODAの姿の見直し
  - ・ 貧困対策より、外交・経済成長重視のODAの方向性でよいのか？
    - ・ アフリカ：貧困・紛争との向き合い方の不十分さ
  - ・ 経済成長のみならず環境も含意した真の意味で「持続可能な発展」を可能とするODAとは？
    - ・ 先進国をモデルとした開発の困難
      - ・ 負の経験も踏まえて世界のよりよい発展の方法を模索するODAが必要なのでは？
  - ・ 消費者・労働者としての利益が還元される国民のみならず、  
よりよい世界を目指したODAを求めている国民・市民の存在しないのか？

ODAの量や、国と地域間の比較検討という意味では、中東・アフリカ編で少しさせて頂きましたが、全体の中ではアジアがかなり多くて、アフリカや中南米の方がかなり少ないということです。また、それぞれの地域の中や国内でもかなり差があるという点は、やはり注目に値するもので、今後分析があってもよい分野かと思っています。各地域あるいは全体的なODAの姿の見直しという点において、貧困対策よりも外交や経済成長重視のODAの方向性に向かって見られますが、これでよいのか、ということも皆さんに問いかけたいと思います。特にアフリカにおいて貧困や紛争への向き合い方が不十分だということも見られました。さらに、経済成長のみならず環境も含めて考えた意味で、持続可能な発展を可能とするODAというのは難しいのだろうか、ということも問いかけたいと思います。これまでの先進国をモデルとした開発が困難であるということは、環境面でも見えてきていますが、このような経験も踏まえて世界のより良い発展の方向を模索するようなODAが必要なのではないかと考えております。必ずしも消費者や労働者として利益が還元される面だけではなく、より良い世界を目指してODAを求めている国民や市民の存在はないのでしょうか。皆さんのご意見もお伺いできれば幸いです。

### —質疑応答—

阪本

それでは、予定通りコメントと質疑応答の時間に入ります。チャットでも口頭でもよいのですが、いかがでしょうか。多くの著者の方も来て頂いていますし、あるいは発表された方で話足りないという方でもよいです。

高田（質問者）（チャットでの投稿を阪本が代読）

高田さんありがとうございます。「阪本先生の発表の中で出てきた援助ビジネスについて詳しく知りたいです。例えばどんな援助ビジネスがありますか？」というご質問です。